

令和6年度(2024年度)学校評価に係る保護者アンケート集計結果

北海道清水高等学校

1 本年度の重点目標

授業改善により主体的に学ぶ喜びを感じさせ、課題について考え、他と協議しながら行動する学習指導を推薦する。
生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む発達支持的な生徒指導を実践する。
夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませるキャリア教育を推薦する。

2 学校自己評価結果及び改善方策等

4: 十分達成できた、3: まあまあ達成できた、2: あまり達成できていない、1: まったく達成できていない

大項目	中項目	番号	具体的評価項目	評価平均	意見等
教育活動方針	学習指導	1	地域と協働した探究的な学びを通して、課題について主体的に考え、他と協働しながら行動する力を育んでいる。	3.1	・ あすなるファームでチーズづくりの体験をさせたり、清水のお祭りに出店させたりすることも考えられる。 ・ 積極的な体験や学びが1年次からあると、学年が進むにつれ、主体的に考え協働できるスタンスが取れるのではないか。
		2	観点別評価を効果的に実施し、学習指導の改善等に努めている。	3.0	・ 「知識・技能」、「思考・判断・表現」等、生徒自身が何を得意とし、苦手としているかを理解していない様子である。 ・ 面談等を通じて先生から生徒本人の得意・苦手のポイントをアドバイスいただけると、モチベーションがあがると思う。
		3	各教科指導においてICT端末を効果的に活用している。	3.1	・ タブレットを持たせるのであれば、教科書等も電子化すべきではないか。 ・ ICT端末の利用は、先生の準備が大変と聞いている。教科による利用方法や頻度に差があるのは否めないと思う。 ・ アンケート集計、宿題の配布や提出等で効果があると思う。
	生徒指導	4	自律した学校生活の実現に向け、生徒会執行部各委員会に自主的な取組をさせている。	3.0	・ 学校行事とはいえ、生徒会役員等が電車やバスがなくなるまで学校に残るのは再考すべきである。 ・ 生徒会企画が楽しかったと子どもから幾度となく聞いている。 ・ 生徒会執行部や、一緒に盛り上がる意識の高い仲間達と共に体験することにより、活動に対して消極的な生徒が減ることを願う。
		5	生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践できている。	3.3	・ 自律性や主体性を尊重する中で、先生との会話は短い時間でも大切であり、心に響いて残ることがあると考える。 ・ 生徒に寄り添う気持ちが先生の言葉に含まれていたら、生徒たちも自己有用感を高めるきっかけを掴むかもしれない。
		6	生徒主体の活動を推進し、社会性と適切な自己主張ができる力を育てている。	3.1	・ 適切な自己主張とはどこまでなのかを知ること、社会性を身につける上で必要なことだと思う。
		7	学校生活のルール等の在り方を生徒自ら考えさせ、自律的な規範意識を身に付けさせている。	3.0	・ なぜそれがダメなのか、やりたいことが思いどおりにできないのはなぜか、説明してくれていると感じる。 ・ 子どもは、ルールや大人の価値観に反抗的であり、間違えをきちんと謝れた時、自由を履き違えずに自分を律することができると思う。
	進路指導	8	総合学科の特色を活かした教育活動全体を通して、生徒に自己の生き方を模索させることができている。	3.3	・ 子どもは自身の将来を考えることに困惑している様子もあるが、保護者としては、子どもが成長する良い機会をもらっていると感じている。 ・ 一緒に考え、知り、総合学科の魅力を最大限活かすことができる今の環境や先生方に感謝している。
		9	地域や産業界等と連携した体験的な学習などを通して、進路実現に向けた取組を充実させている。	3.3	
		10	キャリア教育において、場面に応じて適切に自分の意見を主張する力を育てている。	3.1	
	健康・安全指導	11	感染症や熱中症予防の学びを、学校生活での健康・安全への取組につなげている。	3.0	・ 感染拡大時の検温、学級閉鎖等の対応が迅速かつ適切で感謝している。 ・ 今後も合唱祭やアイスホッケーの全校応援が行えることを願っている。
		12	校内組織の連携を迅速に行うとともに、外部識者・関係機関を含めたケース会議やいじめ防止会議等を開催し課題の共有を図っている。	3.1	
		13	ICTを活用し、不登校生徒等に柔軟な学びの保障や教育相談体制を充実させることができている。	3.1	
学校運営方針	信頼される学校づくり	14	コミュニティ・スクールの導入初年度にあたり、計画的な運営に努めるとともに、次年度に向けた改善方策を明確にしている。	3.0	・ 生徒が減少するとともに、外部との交流よりもSNSとの繋がりを深める中、貴重かつ大切な組織だと思う。 ・ 外部との交流は刺激を生む。また、人と人の交流は手間がかかると思うが、温かみを感じることができる。生徒のためでもあるが、何か役に立ちたいと思う大人のためでもあると感じる。
		15	生徒による情報発信を充実させ、幼小中への相互乗り入れ活動を実施することができている。	3.4	・ FMJAGAなどの放送を聞いた。質問が上手なこともあり、楽しく紹介されていた。清水高校の魅力を高校生が発信することで大人が見る視点とは異なる学校を感じた。 ・ 新聞記事での関わりを読んだ。幼小中と連携した取組は将来の人生にも活かされると考える。今後も積極的に進め、地域になくてはならない清水高校であってほしいと思う。
		16	道外生徒の受入による教育効果を校内・地域に波及させることができている。	3.2	・ 目標を持ち、大学やその後の生活を見据えて、努力を重ねる生徒が同じクラスにいることが刺激となっている。 ・ 何気なくやっていること、不意に出る言動等が、その人の生活や意識から身に付いていると感じ、そうなりたいと尊敬する気持ちが芽生えているようである。 ・ 知っている仲間ばかりの環境から出て、知らない人に知ってもらったり、知っていくことが楽しいと感じる。
		17	生徒・職員相互の発言や多様性が尊重され、学校の心理的安全性が確保されている。	3.1	・ ジェンダーレスやジェンダーフリーの取組は制服から感じる。 ・ 意識しすぎず、使いこなす生徒同士の会話は自然体であると感じている。
	渉外・総務	18	家庭、PTAなどの団体や関係機関等と連携し、地域と協働した学校運営ができたか。	3.0	・ PTA役員になったことで先生方等との会話が增多多くの情報交換ができた。 ・ 学校運営に携わるまでは至っていないが、学校祭や合唱祭に参加できたことは貴重であった。
		19	積極的な広報活動に努め、より効果的な生徒募集を行うことができている。	3.0	・ 学校紹介の動画では地域との繋がりが分かりやすく紹介されていた。住むことを想定したリンクもあると良いと感じた。 ・ 長年勤務されている先生方の得意分野、専門分野、人脈等を活かした発信も楽しみにしている。